

# 1 読み方・発音について

【問】 次の語の読み方を教えてください。

施行 施業 世論 世帯 博士

【答】 施行 「施」は漢音「シ」、呉音「セ」で明治時代にはすべて「セコウ」と読んでいましたが、今では法律でも「シコウ」と読みます。ただし、使う職場によって違うと思いますが。漢字の読み方としては「施工」のばあいは「セコウ」と今日でも通用しています。

施業 「シギョウ」がよいでしょう。仏教用語の「施行」は「セギョウ」です。

世論 「ヨロン」「セロン」の二つの読み方のうち、だんだん「セロン」のほうが優勢になりつつあります。

世帯 「セタイ」です。（「ショタイ」は「所帯」と書きます。）

博士 学位としては「ハクシ」に決っています。

「ハカセ」は昔の文章博士もんじょうはかせや今の俗語に使います。

【問】 「蠅」は「はえ」か「はい」か。教科書によってまちまちですが。

【答】 動物学など学術上の用語（いわゆる和名）としては「ハエ」です。

文部省著作の教科書では「ハイ」になっています。

【問】 「詩歌」「富貴」または「富貴」などの読み方をどう説明したらよいですか。

【答】 「当用漢字音訓表」まえがきの「夫婦」などの例によって説明してください。

【問】 「砂鉄」は「さてつ」か「しゃてつ」か。

【答】 「さてつ」が普通です。

## 2 漢字の使い方について

【問】 当用漢字表の使用上の注意事項について例を示して説明して下さい。

【答】 現行の国語の教科書の類では、だいたい次のようです。ただし、小学校、中学校、高等学校の違いによって、多少の差があります。

1 代名詞・連体詞は原則としてかながきにする。(×印は当用漢字表にない字を示す。)

○わたし ぼく きみ おまえ かれ だれ (誰<sup>×</sup>)

○ある (或<sup>×</sup>) いわゆる この (此<sup>×</sup>) その (其<sup>×</sup>) わが  
ただし、次のような書き方も行われています。

私 彼女

2 接続詞・感動詞・助動詞・助詞の類はかながきにする。

○あるいは および また なお (尙<sup>×</sup>) すなわち したがって

○ああ (噫<sup>×</sup>・嗚呼<sup>×</sup>)

○…そうです …のようだ …ごとき …たい …べきだ  
…してくださる …してみる …しすぎる

○くらい (ぐらい) ながら (乍<sup>×</sup>) など ばかり ほど まで  
(迄<sup>×</sup>) とともに のかわりに のとおりに において (於<sup>×</sup>)

## 3 副詞はなるべくかながきにする。

○あたかも(恰) いささか(些) もっぱら じゅうぶん  
たいへん ちょうど だいぶ だいたい せっかく ずいぶ  
ん さっそく いっしょうけんめい

ただし、次のような書き方も行われています。

全く 常に 必ず 最も 再び 大いに 今

実に 元来 万一 当然 突然 一応 堂々と 平然と 非  
常に

割合に 絶えず 夢にも 重ねて

## 4 接尾語の類はなるべくかながきにする。

○一年じゅう 三人まえ 百回め 十足ぶん …がち …どう  
し 十か月

## 5 外国(中国を除く)の地名・人名はかながきにする。

○イギリス フランス アメリカ ロンドン ツルゲニエフ  
リヴィングストン

備考 中国については、「北京」のごとく中国現代標準音のふ  
りがなをつけたものと、「徐州」のごとくわが国の字音のふ  
りがなのものとある。

## 6 外来語はかながきにする。

○ラジオ ノート カーテン ステッキ センチ(糰) メー  
トル グラム(瓦) ガス(瓦斯) ガラス(硝子)

## 7 動, 植物の名称はかながきにする。

○いぬ ねこ うし ろば ひつじ りす たか ふくろう  
 ひばり すずめ あゆ  
 うめ さくら いちょう くわ しゅろ あさがお りんご  
 みかん なす かぼちゃ とうもろこし らっかせい さつ  
 まいも

ただし、次のような書き方も行われています。

竹やぶ 麦畑 麦わら 雌牛 <sup>しゅろしゅ</sup> 棕櫚酒

当用漢字表にある動、植物名の字は、主として熟語構成のために入れられたものである。

例 牛 馬 犬 豚 羊 象 鶏 鯨 蚕 松 柳 桑 梅  
 桜 菊 桃 竹 茶

8 道具などの名称もかながきにする。

○茶わん さじ 油ざら めしびつ こたつ ぞうり くつ  
 いす ちょうめん ろうそく 本だな 火ばち

9 あて字はかながきにする。

○うらやましい すてき やはり  
 (熟字訓) きょう ゆうべ ことし すもう おもちゃ へた  
 いなか おとな ことば

10 当用漢字表・同音訓表で書けるものでも特にながきにすることが望ましいものがある。

1) 意味が漢字から離れている場合

ほねおる じょうぶ わんぱく りっぱ しばい ぐあい

## 2) 一語としての意識が強い場合

しくみ ひっぱる あおむく

## 3) 漢字で書くと誤読されるおそれのある場合

くふう

## 4) その他

ありさま できごと

## 11 音訓表になくて書けないので、かながきにするもの(▲印は、当用漢字表に字はあるが、音訓がないものを示す。)

△したく(支度) ▲へや(部屋) ▲しわざ(為業) ▲ひとり(独)

うしろ(後)

△つどい(集) ▲すべ(術) ▲はぐくむ(育) ▲いただく(抱)

〔古訓・文語〕

## 12 当用漢字表にないので、かながきにするもの

○あいさつ あいまい ゆううつ けいべつ ごきげん ほう

たい こじき ほうび だめ れんが

○とびら におい かび かきね しろ 貝がら かん高い

煮ざかな 麦わら 本だな 火ばち

熟語で一方の字が使えない場合、漢字とかなとをまぜて書く書き方は、現在の教科書にはあまりないが、「ばい菌」のような場合には、全部かながきにするか、漢字を使ってふりがなをつけている。

れい度 ちく音機 小ぞう など。

以上は、従来漢字を使ったものでかながきになった例ではありますが、逆にどうということばに漢字が使われているかといいますと、名詞・動詞・形容詞・形容動詞（もちろん活用語尾はかながき）などを書き表わす場合、当用漢字表・音訓表の範囲で書けるものは、だいたい漢字を使ってあるわけですが、その中で注意すべきことは、同音の代用の問題であります。

例 熔・鎔→溶 洲→州 智→知 篇→編 聯→連 註→注 礦  
→鉦 慾→欲 劃→画 廓→郭 廻→回 托→託 棉→綿  
煉・鍊→鍊 稀→希 綜→総 訊→尋 輯→集 附→付  
台風 日食(蝕) 総合(綜) 連合(聯) 計画(劃)  
台頭(擡) 一獲千金(攫) 意気軒高(昂) 豪州(齡  
→令 歳→才)

最も問題になるのは、当用漢字表や音訓表にはずれたものであります。当用漢字表の注意事項では、そういう場合には、別のことばに言いかえるか、かながきにすることになってはいますが、このどちらもぐあいが悪いときには、中学校の国語教科書などでは他人の文章を多くとっている関係上、言いかえはあまりしてないようで、むしろ漢字を使ってふりがなをする方式がとられています。

## 1 地名・人名

○奈良	かすが	わかくさやま	しなの	むさし				
	春日	嫩草山	信濃	武蔵				
○秀吉	ひでよし	よしつね	やかもち	なおや	あくた	りゅうのすけ	よし	かつら
	義経	家持	志賀直哉	芥川竜之介	淑子	桂正作		

## 2 学術専門用語

○昆虫 双翅類 甲殻類 禾本科 脊椎動物 臼齒 鷗尾

## 3 古語

○築地 万華鏡 冠者 二十日 齡 糧 和尚

## 4 読み紛れやすい語

○上方 来春 漁を仕事に…

## 5 普通の語

○昂然 放擲 暗澹 親戚 気魄 獐猛 谿谷 眺望 偵察  
 掠奪 祈禱 酋長 尖端 嚆矢 容貌 斷乎

これらの中には適当に言いかえられるもの、漢字とかなとをまぜて書いてよいものがあります。

【問】 教育漢字の「読み」の試験をしてみたら、「弐」の字がほとんど読めなかった。「弐」や「弐」は教育漢字として不用ではありませんか。

【答】 漢字の必要性は、使用ひん度の高低にかかわらず、質的に絶対必要だというものがあります。「弐、弐」の2字はそれです。ただし、将来、証書面の数詞の表現も、すべて横書きの算用数字でまかなうようになれば、そのときには漢数字の必要性がほとんどなくなり、特に「弐、弐」はまったく不用になります。(古典のほかは)。しかし、それまでは「弐、弐」も必要であるというので、教育漢字の中にも採用されたわけです。



【問】「年齢」を「年令」と書いてもよいですか。

【答】「齡」の略字として「令」を「年令」の場合には使っています。

【問】「12歳」を「12才」と書いてもよいですか。

【答】「…歳」という場合の接尾語としては「…才」と書いてもさしつかえありません。それでも実用的にはじゅうぶん「…歳」の意味となるように、現代の社会的通念としては認めています。

【問】メートル法の「籽・坵・甌」などの字はどう扱ったらよいでしょうか。度量衡の用字としてこの字を用いたいと思うのですが、小、中学校の教科書はどう扱っていますか。

【答】メートル法の「籽・坵・甌」などの字は、どれも当用漢字表にありません。「メートル・キロメートル」というふうにかたかなで書くか、あるいは m, km, kg, kt の符号を用います。現在の教育では、m は小学2年から、km, kg は3年、kt は5年から教えています。すべて小文字で書き、略符号の「・」などもつけません。

【問】「冒険」と「探険、探検」はどちらが正しいか。

【答】「冒険」と「探検」が正しい。ただし、「探検」は、特に危険をおかして実地を探るというような意味を表わすつもりで、

「探険」などと書かれることがあります。

【問】「価格」と「価額」は、どちらが正しい用字法ですか。

【答】「価格」です。

【問】「車輛」は「車両」でよいか。

【答】元来は「車両」なのです。「両」の本義は、車の両輪のことです。その「両」にあとから車へんをつけたのです。「車輛」という場合には、前に「車」があるから、車へんはなくてもわかるという意味で、意識的に「輛」の字が制限されたのです。

【問】「批難」と「非難」はどちらが正しいか。

【答】元来は「批難」で、その「批」の字も当用漢字表にあります、が、なるべくやさしい漢字を使うというたてまえからは「非難」でいいと思います。

【問】「排列」と「配列」はどちらが正しいか。

【答】前項と同じ意味で「配列」を使うようにしています。

【問】新設の会社名「〇〇醬油株式会社」を、当用漢字表に従ってつけたいと思いますが、なんと書いたらよいでしょう。

【答】「醬」の字は当用漢字にありません。ついては、

(イ) 正油 (ロ) しょう油 (ハ) しょうゆ この三つの書き方のうち、

(ハ) の「しょうゆ」という書き方がいちばんよいというのが多数の意見です。前後が漢字で、その中に「しょうゆ」というかながきがまじるのは、ちょっとへんなように思えるかもしれませんが、新しい考え方からすれば、目的物が非常に目だって、広告上にも大きな効果があるというものです。

しかるべく御取捨の上、御決定ください。

**【問】** 「ふぜい」はどう書きますか。

**【答】** かなで「ふぜい」と書きます。もし、どうしても漢字を使うとすれば、そえがなをします。たとえば

風情 (ふぜい) 風情<sup>ふぜい</sup>

### 3 字体について

**【問】**「童」の字は「立」に「里」と教えてよろしいか。習字の本に「里」の捧が上に突き抜けているのがあります。字原は「立」に「重」であるから、その点からはそれが正しいと思われそうですが。

**【答】**「童」は、字原にかかわらず、現行の規範的字体としては「立」に「里」です。

ただし、芸術書道としては古来の伝統・習慣もありますから、そこに多少のゆとりをもって見なければなりません。

**【問】**「冷」の字体について、教科書活字がまちまちである。

**【答】**明朝活字では「冷」ですが、筆写体では「冷」と書くのが普通です。(それは書きやすい形に自然になったのです)。それで、教科書体では筆写体の形によるようになっています。

**【問】**「夢」の字体は新旧で違いますか。あわせて筆順もお尋ねします。

**【答】** 違います。

「夢」は「サ 四 一 夕」の構成で、筆順もそれに従います。これが基準です。

ただし、早書きには「一「」「」一「」タ」の筆順でも書きます。  
字体表は「クサカシムリ」の「タテカク」と「罍」の中の「タテカク」とが一直線に見えますが、基準としては上記のように「サ罍」の構成であると解釈しています。大字ではそれがよく表われます。

【問】 旧字体は誤りとすべきであるか。

【答】 旧字体を誤りとするかしないかは評価の際の約束しだいです。新字体によるときは、書取考査の前に、答は新字体で書くという約束を新たにしておくだけの親切がほしいと思います。作文の中で書いているのは、誤りとししないで、注意を与えて、しだいに新字体に向かわせたいと思います。

【問】 新聞の活字が、大小によって字体がまちまちである。

【答】 新聞の活字を各号にわたって全部新字体にすることは、実際には予想以上に進んでいるのが現状です。

文部省としては、経済上の問題があるので、なるべく早くという希望で、機会あるごとに協力しています。

## 4 筆順について

**【問】** 漢字の筆順が，人によってまちまちで困っています。教科書についているのもずいぶんまちまちです。筆順として一定した基準はないのでしょうか。

**【答】** すべて仕事には手順というものがあり，手順がよいと仕事のできもよい。筆順も，字を正しく，速く，美しく書く上の手順であって，必要なものです。そして，だいたいにおいて，古来，自然に一定した筆順があります。ただし，一字で二つ（まれに二つ以上）の筆順が行われているものも少しはありますが，それは例外です。

**【問】** 新旧字体の違いによって筆順が変わってもよろしいか。

**【答】** 当然変わるものがあります。

## 5 音のない漢字について

【問】 当用漢字音訓表に、訓ばかりあって音のない字があるのは、  
どういうわけですか。

【答】 この類の字が 30 字ありますが、それは、漢字としては音があっても、日本語で音に使うことがまったくない、あるいは少ないので、そういう字は、音をはぶいて、訓ばかりを使うことにしたのです。たとえば、

扱 あつかう (漢字としては「キュウ」という音がある。)

芋 いも (漢字としてはウの音がある。)

峠 とうげ (漢字としては音がない。)

込 こむ (漢字としては音がない。)

【問】 漢字として、音がないのはどういうわけですか。

【答】 ひとくちに、日本でこしらえた字だからといわれています(それで「国字」と呼ぶ)。しかし、はたして全部が全部そうであるかどうかは、学問上では疑問の点があります。

## 6 漢字の部首引きについて

【問】 漢字の部首引きで、むずかしいものの例を示してください。

【答】 相当に多いのですが、そのうちで数例をあげておきます。

九 (現在「乙」の部にある)

世 (〃 「一」 〃 )

以 (〃 「人」 〃 )

冒 (〃 「冂」 〃 )

勝 (〃 「力」 〃 )

卒 (〃 「十」 〃 )

吏 (〃 「口」 〃 )

奉 (〃 「大」 〃 )

弟 (〃 「弓」 〃 )

才 (〃 「手」 〃 )

承 (〃 「手」 〃 )

愛 (〃 「心」 〃 )

求 (〃 「水」 〃 )

頼 (〃 「貝」 〃 )

【問】 新字体になって、少しも手がかりがなくなったのがあります。

新しい部首引きはまだ決まりませんか。



【答】 研究中です。

新部首を決定して、これからの字典はそれによるということにするのには、慎重に考えなければなりません。現実の教室で、へんやつくりによって並べるような場合に、必ずしも従来の字典の部首による必要はなく、たとえば、和（字典では「口」の部）でものぎへんで集めてよく、そして、旧来の字典の引き方として、上級になって別に考えればよいわけです。

## 7 漢字の学年配当について

**【問】** 漢字の学年配当は厳守すべきであるか。

**【答】** 小学6年、中学3年の計9年が義務教育の期間です。その間に、社会に出てから必要不可欠と思われるだけの漢字を修得させることが目標です。この意味で、低学年から漢字を厳格に割り当てて、その記憶を厳重に要求することは、あまりに児童の先天的能力および学習能力発達の個人差を無視したものであると思います。一般に低学年では「ことば」の理解と表現の能力（それは「かな文」で可能である）の訓練を主とすべきであり、それに適当に漢字をあてて書くことは第二次的な作業として、漸進的に進めてよいと思います。ことばの上の敬語や表記上の漢字の適用などは、すべて修辭面のことですから、その修辭面の早期強要から、児童の表現意欲を委縮させてはならないと思います。

## 8 かなづかいについて

【問】〔オーイ〕という呼び声は「おおい」か「おうい」か。

【答】普通のことばの長音は、エ列の長音もオ列の長音も、すべて「あ、い、う」の3母音字で表わしますが、感動詞は、とくに昔から「あ、い、う、え、お」の5母音字をすべて使って表わします。たとえば、

ああ いいえ ふうん ええ おお おおい

古典の例では、たとえば、

後から「おおい、おおい、<sup>いなか</sup>田舎者、返せ、返せ」と申して

(狂言記 大日本国語辞典)

とあり、現行の教科書では多くは「おうい」となっていますが、どちらに書いても誤りではありません。

返事の「おお」も、古典に「おお」「おう」両方の用例があります。たとえば、

おお、それよ。人の話に聞きおきし、

(西鶴，加古教信土墓廻，大日本国語辞典)

おう、それ、それ。その伊勢本，伊勢本。

(狂言記，いの字，大日本国語辞典)

【問】「大阪」を「おおさか」と書くよりも、むしろ「おうさか」と

書くことに統一してほしい。

【答】一つの希望意見としてはもっともなことです。現行の規定では「おおさか」です。

【問】「ぢ、づ」の例外の書き方は、固有名詞にも適用しますか。  
次の地名の新かなづかいをお尋ねします。

【答】現行のきまりでは――

1. 適用します。
2. 舞鶴 会津 国府津 浅芽が原

【問】よう音（わたる音）の「や、ゆ、よ」を、ルビでも小さくすべきではないか。

【答】ルビでも「や、ゆ、よ」「つ」を小さくすることは、原則としてはそうですが、実際にはむずかしい点があります。

そこで、これは指導の上で注意を与え、そのつもりで読むことを教えるのが、現下の処置であると思います。

## 9 送りがなについて

**【問】** 「すくなくない」は、「少くない」と書くのがよいか、「少なくない」と書くほうがよいですか。

**【答】** 読み誤りが少ないように、「少なくない」と書くほうがしだいに普及してきています。したがって、「すくない」も「少ない」と書くのがよいでしょう。

## 10 数字の書き方について

【問】 横書き文における日付の書き方について、たとえば、 $4/5$ か $15/4$ かは一定していますか。

【答】 横書きでは、昭和29年1月15日のように書きます。場合によって（たとえば、表など）は、昭和29. 1. 15のように書いてもよいことになっています。また、表などに、 $4/5$ 、 $15/4$ のように書く場合は、その用いる所の習慣で一定はしていませんが、普通 $4/5$ のように書かれています。

【問】 左横書きの場合における、算用数字と漢数字との書き表わし方について、現在ではどういうきまりになっていますか。

【答】 左横書きの場合、数を表わす場合はアラビア数字を用います。たとえば、

3,956 円、 26 本、 105 回

ただし、一部分の意味のときの「一部」、「一般に」、「三日月」などには漢字を用います。

また、概数を示す場合も漢字を用います。たとえば、

四、五日、 五、六万、 数十日

数を表わす場合でも、「ひとつ、ふたつ、みっつ、よっつ…」と読む場合は漢数字を用います。